

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.118

2009/09/20

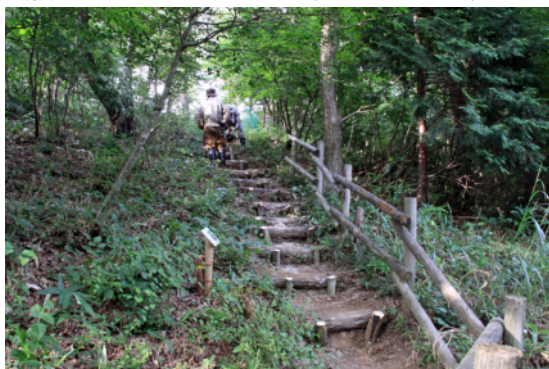
山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

湿原から流出する沢沿いの観察コース整備作業進行中 (09/09/15)

7月12日から開始した観察コース階段補修作業は、9月7日で第一段階を終了することにしました。藤澤森林レンジャーのカウントでは、全コースに897段の階段があり本年新設・補修を行ったのはそのうち408段に達しました。この間に復元した北部湿原への土砂流入を止めるため「沈砂池」を造成しました。この効果は抜群



「沈砂池」の造成 (09/08/24)



気の遠くなる階段補修作業 (09/09/03)

で湿原内への土砂流入を食い止めています。ただ容量に限度があるため、一定量の堆砂が生じれば土砂排出作業を行う必要があります。この作業で湿原への水供給が安定し、湿原本来の植物や多くの



樹根保護の落葉敷き詰め作業 (09/08/24)

トンボの産卵行動が日々行われています。「アカガシの森」では、来訪者の増加に伴って老樹の樹根が露出し樹勢が衰退するのを防ぐため、落葉を敷き詰める作業も行いました。未だ完全ではありません。おでかけの際に現地に土嚢袋を置いていしますので、少しでも落葉を集めて敷き詰めてもらってと保全に役立ちます。

階段補修作業に続いて現在精力的に実施しているのは、「沢沿いコース」の整備です。この道は、森が薪炭林として利用されていた1960年代までは利用されていたものです。それ以降放置されてきたため道は崩壊・沢には倒木や木々が被うという惨憺たる状況でした。しかし、このルートには貴重な動植物が生息・分布しているため日照条件を改善することを主目的に作業を続けています。未だ危険なため当分一般開放はしません。

「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」

<http://www.digitalsolution.co.jp/nature/yamakado/>

多様な来訪団体

大人も子どもも「自然」に接する機会が少ないことが問題視されて久しい。「山門水源の森」が生物多様性に富んでいることは言をまたないが、その重要性を如何に普及し活用しつつ保全してゆくかが本会発足当時の課題である。こうした中で単なる観



光というのではなく、自然の恩恵を実感しつつ保全活動（コープしが北地区のみなさんのセイタカアワダチソウ除去作業）にも参画したり、地域の自然環境の実態を理解し教育に生かしていく（伊香郡新任教諭研修）という来訪団体が増えつつあることは喜ばしいことです。

コープしが北地区のみなさん（09/08/19）

伊香郡新任教諭研修会（09/09/15）

た中で単なる観

光というのではなく、自然の恩恵を実感しつつ保全活動（コープしが北地区のみなさんのセイタカアワダチソウ除去作業）にも参画したり、地域の自然環境の実態を理解し教育に生かしていく（伊香郡新任教諭研修）という来訪団体が増えつつあることは喜ばしいことです。

新たな顔ぶれも

森歩きの楽しみは、保全活動の成果を見届けることと、新たな動植物出会い



タカネトンボ（09/08/31）



オジロサナエ（09/09/06）



コニヤンマ（09/08/23）



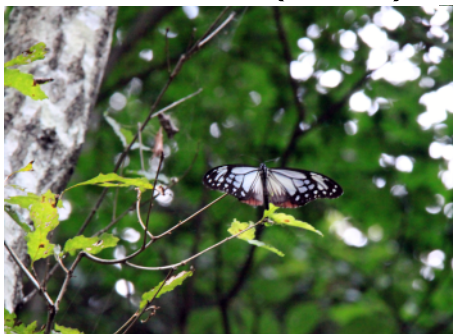
ミルンヤンマ（09/09/13）



クロスズメバチ（09/09/13）



ノウサギ（09/09/09）



アサギマダラ（09/09/16）



オクモミジハグマ（09/09/15）



カラスゴミグモ（09/09/09）

です。もちろん森の生きものは日々変化しているのだが旧知との再会、全くの新顔との遭遇には日々心が躍る。上の画像ではオジロサナエ・クロスズメバチ・オクモミジハグマ・カラスゴミグモは初顔合わせです。アサギマダラは、9月7日・9日に飛翔個体を見ていたが16日は群舞とはいいがたいものの最低6頭はいたのではないかと考えられます。今年は吸蜜植物であるヒヨドリバナがシカの食害で少なく心配していたのだが、「首吊りの松」近辺のギャップに長時間にわたり滞在しました。**新たな出会いを求めてお出かけ下さい。**